

青森高校 探究学習 CAN-DOリスト 実際にやったことがあり、できることを○で囲んで下さい。

月時点

	論理的思考力 (LG)	情報処理能力 (IN)	批判的判断能力 (CR)	発信力 (OP)	協働能力 (CO)
	【青高力：論理的思考力】	【青高力：原因分析力】	【青高力：課題発見力、課題解決力】	【青高力：発信力】	【青高力：受信力、協働力、行動力】
	CAN-DO	CAN-DO	CAN-DO	CAN-DO	CAN-DO
1	文章中でのそれぞれの文の持つ役割を説明することができる。	1 与えられた単独のグラフや図表から必要な情報をとりだすことができる。	1 日常的に社会事象に目を向け、積極的に情報を得ることができる。	1 自ら進んで話しかけることができる。 / 教室内の1対1の関係の中で積極的に相手に話しかけて、相手の意見を聞くことができる。	1 友好的な雰囲気と礼儀を持って相手に話しかけることができる。
2	必要に応じて、得た文字情報を図式化できる。	2 与えられた複数の情報を、目的に応じて取舍選択できる。	2 一つの課題に対して、多角的な観点から意見をのべ合うことができる。	2 わからないことや不明なことを相手に確認することができる。 / 教室内の1対1の関係の中で積極的に自分の意見を述べることができる。	2 相手の意見を尊重しつつも、自分の意見をはっきりと述べるすることができる。
3	多角的な意見を分野毎にまとめたり、関連づけることができる。(※ 批判的判断能力と同一)	3 与えられた複数の情報の関連性を読み取ることができる。	3 多角的な意見を分野毎にまとめたり、関連づけることができる。(※ 論理的判断能力と同一)	3 相手が得たい情報を大まかに推測することができる。 / 学校内の1対複数の関係の中で積極的に自分の意見を述べるができる。	3 とともに利益のある方向を模索しながら話し合いを進めることができる。
4	与えられた一連の情報を論理的にまとめて述べるができる。	4 与えられた複数の情報と自分の知識を組み合わせて、関連性を読み取ることができる。	4 得た情報をもとに、課題を設定することができる。	4 目的に応じた情報発信の形式を選択することができる。 / あらかじめ対象が設定された学校外の環境で相手と日本語で意見交換やインタビューができる。	4 それぞれの意思や得意分野を生かし、機能的に役割分担することができる。
5	周囲の手助けがあれば、与えられた例に含まれる論理的不具合に気づき、指摘することができる。	5 自分の仮説を支持するために必要な情報の大まかなイメージをつかみ、それを入手することができる。	5 課題に対して、仮説を立てることができる。	5 論理的に意見を構築し、アウトラインを作成することができる。 / 対象が設定されていない学校外の環境で自ら話しかけ、日本語で意見交換やインタビューができる。	5 複雑な問題について、少人数のグループ内で話をまとめることができる。
6	与えられた例に含まれる論理的不具合に、自力で気づき、指摘することができる。	6 情報を伝えやすいように加工して提示することができる。	6 自分の仮説に対して、どんな反論があり得るのかを想定できる。	6 アウトラインを参照しながら、意見発表をすることができる。 / あらかじめ対象が設定された学校外の環境で相手と外国語で意見交換やインタビューができる。	6 簡単な問題についてグループの代表として、他のグループとの折衝を行うことができる。
7	ある事実に対する論理的な説明文を作成することができる。	7 事前に得た多量の情報を処理し、必要に応じて活用することができる。	7 事前の準備があれば、相手の主張に対して合理的な反論を出すことができる。	7 図表などを効果的に用いながら、説得力を持った意見発表ができる。 / 対象が設定されていない学校外の環境で自ら話しかけ、外国語で意見交換やインタビューができる。	7 様々な要素が絡み合う複雑な問題について、グループ同士で折衝を行うことができる。
8	自分の考えを、得た情報と融合させて論理的に説明することができる。	8 提示された比較的多量の情報をその場で処理し、必要に応じて活用することができる。	8 話し合いの中で他者の主張の論理的不備に気づき、その場で指摘することができる。	8 討論の中で、有力な根拠を示しながら適宜自分の意見を補強することができる。 / 文化の違う環境の中で、外国語で意見交換やインタビューができる。	8 様々な要素が絡み合う複雑な問題について、他のグループとの折衝をグループの代表として行うことができる。

年 組 番 氏 名

## SGHの目的とCAN-DOとの関連性

(仮説1)「多様性の理解に基づき、課題を設定する力」の育成-外国人との交流を通じて、異なる価値観や文化的背景を理解することで課題を認識し設定できる。

### 目的

ア 外国人との交流を通じて、異なる価値観や文化的背景を持つ人々を理解する。

イ 外国人との交流を通じて、対等な立場で話し合う力を育成する。

ウ 外国人との交流を通じて、青森県が抱える課題をグローバルな視点で認識し、研究課題を設定する。

### 実施内容

ア 三沢基地内のエドグレンハイスクールの高校生との交流・意見交換

イ 主に英語を母国語としない、県内大学（青森中央学院大学、弘前大学等）の留学生と英語での交流・意見交換

ウ ICTを活用した海外協力校の高校生との交流

### 実施方法

ア 英語を母国語とする青森県三沢基地のエドグレンハイスクールを希望者で訪問する。青森県に関するテーマを設定して意見交換し、青森県についての外国人の立場からの認識を調査する。

イ 青森中央学院大学、弘前大学等の留学生と英語で交流する。青森県に関するテーマを設定して意見交換し、青森県についての外国人の立場からの認識を調査する。

ウ ICTを活用し、海外協力校の高校生徒との交流やディスカッション等の場を設けて異文化交流を行う。

エ 探究型学習に取り組んでいる高校を訪問し、情報交換を行う。（先進校視察）

論理的思考力 (LG)	情報処理能力 (IN)	批判的判断能力 (CR)	発信力 (OP)	協働能力 (CO)
3	1. 2. 3. 4	1. 2. 3. 4	6	5
			1. 2. 3. 4. 5. 6	5
			1. 2. 3. 4. 5. 6	1. 2. 3. 5
			4. 5	1. 2. 3. 4

(仮説2)「グローバルマインドに基づく企画力」の育成-外国人との協同学習や海外経験を通じて、グローバルマインドに基づく企画力が育成される。

### 目的

ア グローバルマインドに基づく先入観にとらわれない企画力を身につけた人材の育成を目指す。

イ 外国人との協同学習や海外経験を通じて、柔軟な発想で問題を認識し、その解決に向けて相手と交渉していくコミュニケーション能力を身につける。

ウ 協調性・柔軟性・寛容な態度をもって、異なる文化や価値観を持つ者と共生していく力をもった人材が育成される。

### 実施内容

ア 情報の収集・分析手法の習得

イ 外国人との協同学習

ウ 海外でのフィールドワーク

エ 大学の留学生等とのグループディスカッション

オ プレゼンテーション能力向上のためのワークショップ

### 実施方法

ア 連携大学の教授や大学院生を講師に迎え、情報収集方法、分析手法等について講義を受ける。

イ 英語を母国語とする三沢基地内のエドグレンハイスクール高校生と県産品の良さや、その海外へのアピール方法等についての話し合いをする。外国人にとって魅力のある観光地についての意見交換をする。

ウ 主に英語を母国語としない県内大学（青森中央学院大学、弘前大学等）の留学生と、英語で各国の文化を紹介しながら、青森県のアピール方法について意見を聞く。

エ 夏休みを利用してニュージーランドまたは米国メイン州での協同学習のいずれかに参加する。同時に、現地における県産品のマーケティングリサーチや青森県についての意識調査を行う。

オ 連携大学の英語を母国語とした留学生と、青森県のロジスティクス戦略を視野に入れたビジネスモデルの可能性について、ディスカッションを行う。

カ 連携大学の教授や大学院生を講師に迎え、プレゼンテーション能力の向上のためのワークショップを行う。

論理的思考力 (LG)	情報処理能力 (IN)	批判的判断能力 (CR)	発信力 (OP)	協働能力 (CO)
3. 4	1. 2. 3. 4. 5. 6			
			1. 2. 3. . 5. 6. 7. 8	1. 2. 3. . 5. 6. 7. 8
			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8
			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	6. 7. 8		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8
2. 4	6		4. 5. 6. 7	

(仮説3)「ビジネスモデルの開発による理論と実践を融合する力」の育成-大学教員、外国人、NPO等外部機関からの意見、助言を踏まえてビジネスモデルの開発を行うことにより、理論と実践を融合する力が

### 目的

ア 従来の枠にとらわれないビジネスモデルの開発を目指す。

イ 外部機関等からの指導を受けて、実践に対応できる力を身につける。

ウ 世界で活躍できるグローバル・リーダーに必要な、理論と実践を融合する力を身につけた人材が育成される。

### 実施内容

ア 海外フィールドワークでのマーケティングリサーチ

イ 県産品の海外への販路拡大や青森県への観光客誘致のためのビジネスモデルの開発

ウ 校外の会場で、各関係機関の他、広く県民を対象とした発表会を開催する他、マスメディア等を通して研究成果の発表

### 実施方法

ア 「SGHプロジェクト学習Ⅱ・Ⅲ」の時間を利用して実施する。

イ 連携大学と緊密に連絡を取り、大学教員の指導のもと、海外フィールドワークでのデータをまとめ、分析し、レポートにまとめる。

ウ 県内の観光地へ赴き、調査・情報収集をし、データをまとめる。

エ 海外フィールドワーク、県内観光地調査の結果等を踏まえ、ビジネスモデルの開発に着手する。

オ 様々な機会をとらえて、開発したビジネスモデルに対するフィードバックを受け、実践に耐えうるプログラムへと進化させる。

論理的思考力 (LG)	情報処理能力 (IN)	批判的判断能力 (CR)	発信力 (OP)	協働能力 (CO)
			8	
2. 3. 7	7	5. 6. 7		
	4. 5	5. 6	8	
6. 7	7	5. 6. 7	5. 6. 7. 8	5. 6. 7. 8
5. 6. 7	7	8	8	